

報告内容には現段階における推測を含みます。
今後の調査で大きく変更する可能性があります。

令和6年能登半島地震 現地調査（第二次調査）

調査概要と得られた主要な知見

令和6年4月24日（水）
高知大学 第21回定例記者会見

高知大学・高知県等合同調査団 団長
原 忠

©Tadashi Hara, Kochi University, All Rights Reserved.



令和6年能登半島地震 現地調査（通算2回実施）

・ 第一次現地調査（団員15名）

実施日：2024年1月26日～28日（3日間）

調査場所：石川県七尾市，志賀町，内灘町

富山県氷見市，高岡市

目的：発災直後の被災実態の調査（地盤・津波・土木構造物等）

・ 第二次現地調査（団員16名）

実施日：2024年4月19日～21日（3日間）

調査場所：石川県奥能登地域（輪島市，珠洲市，穴水町）

富山県氷見市

目的：

① 震源地近傍の被災実態の調査（奥能登地域）

② 被災から3か月が経過した現地の復旧の現状と課題の整理
（現地調査＋行政職員・住民ヒアリングを対象とした意識調査）

産学官合同調査による幅広い視点からの実際把握と知見の共有

©Tadashi Hara, Kochi University, All Rights Reserved.



第二次現地調査で得られた主要な知見

- 震源断層域近傍の奥能登地域は、**揺れによる被害がより深刻**。木造家屋の倒壊は平野のみならず、地盤の硬質な山地でも発生。
- 家屋の倒壊や液状化によるマンホールの浮上による**避難路の閉塞**が散見。耐震化は**迅速避難とまちの復旧に極めて有効な対策**。
- 河川堤防、ため池などの土構造物が、**揺れや液状化により大きく被災**。河川堤防は液状化後の側方流動により、護岸が大きく崩壊したが、**鋼矢板による対策工が被害を軽減**させた。
- **斜面崩壊**により道路が閉塞され、集落の孤立化に発展。
- **津波による浸水範囲は限定的**であるが、木造家屋が大きく損傷。
- 事前訓練が効果を発揮し、**80歳を超える高齢者が駆け足で避難し、津波を免れた事実**は参考にすべき事項(珠洲市ヒアリングより)。
- **液状化による被災が地域のインフラと復旧に大きく影響**。
- **時間の経過とともに住民、行政のニーズが大きく変化する実態**が伺えた。**対口支援**が自治機能の維持や避難所運営に大きく寄与。
- 炊き出しに被災した料理人を雇用し、**地域に安らぎを与えていた**。

©Tadashi Hara, Kochi University, All Rights Reserved.



奥能登地域の市街地の現状



- 被災時から時が止まっている。
- 地域の復興ビジョンが定まらなないと先に進まない。
- 解体プロセスの遅延と業者の不足。
- 液状化で損傷した密集集落の復興の在り方は新たな課題。

©Tadashi Hara, Kochi University, All Rights Reserved.



被災から約3か月が経過した段階における 現状把握と課題の抽出（ヒアリング調査）



物資配送拠点



応急給水施設



津波避難行動



避難所設置と運営

©Tadashi Hara, Kochi University, All Rights Reserved.



災害後の暮らしの改善と「事前復興まちづくり」の重要性



プライバシーが
守られた避難所



物資配送拠点の
選定と活用法



ユニット型
仮設住宅



仮設シャワー



ため池からの飲料水の
応急給水



対口支援

発災後の市民の健康と生活を維持しながら、
人口流出を食い止めるための方策は？
多角的な視野から、早期に検討すべき事項。

©Tadashi Hara, Kochi University, All Rights Reserved.



被災地を支えるインフラと人材活用



命の道の迅速な
復旧



対口支援による
自治体運営



応急期からの情報
伝達



地元料理人による
炊き出しとふれあい

©Tadashi Hara, Kochi University, All Rights Reserved.



一日も早い復興を願って



2024年6月に「第二次調査団による報告会」を計画中。

©Tadashi Hara, Kochi University, All Rights Reserved.

